

# 令和3年度の事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人国際斜面災害研究機構

## 1 事業の成果

国際斜面災害研究機構の主な事業は、1) ICL の公式月刊ジャーナル「Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides」の編集発行、2) 第5回斜面防災世界フォーラムの開催、3) 世界的地すべり災害軽減に向けた新たな協力枠組み「京都地すべりコミットメント 2020」発効にもとづき、ICL の公式の Book Series ”ICL Contribution to Landslide Disaster Risk Reduction”(ISSN2662-1894)を創設し、2021年にその6巻からなる本「Understanding and reducing landslide disaster risk」を出版した。次にその各項について令和3年4月1日から令和4年3月31日までの報告をする。

### (1) ICL の公式ジャーナルの編集発行

このジャーナルの印刷・配布・販売は独スプリンガー社に依頼している。

令和3年度には、「Landslides」Volume 18 No.4-12, Volume 19, No. 1-3 を発行した。

図1は、各年度毎にクラリベイト・アナリティクス(旧: [トムソン・ロイター](#))から発表されるジャーナルの評価の指標であるインパクトファクターと、印刷頁数、記事の数(1-12月)の変化を示したものである。2021年には、3977頁を編集・出版した。2021年のインパクトファクター(2022年6月28日発表)は、昨年の6.578より低下したが、インパクトファクターの増加トレンドは継続し、6.153になった。

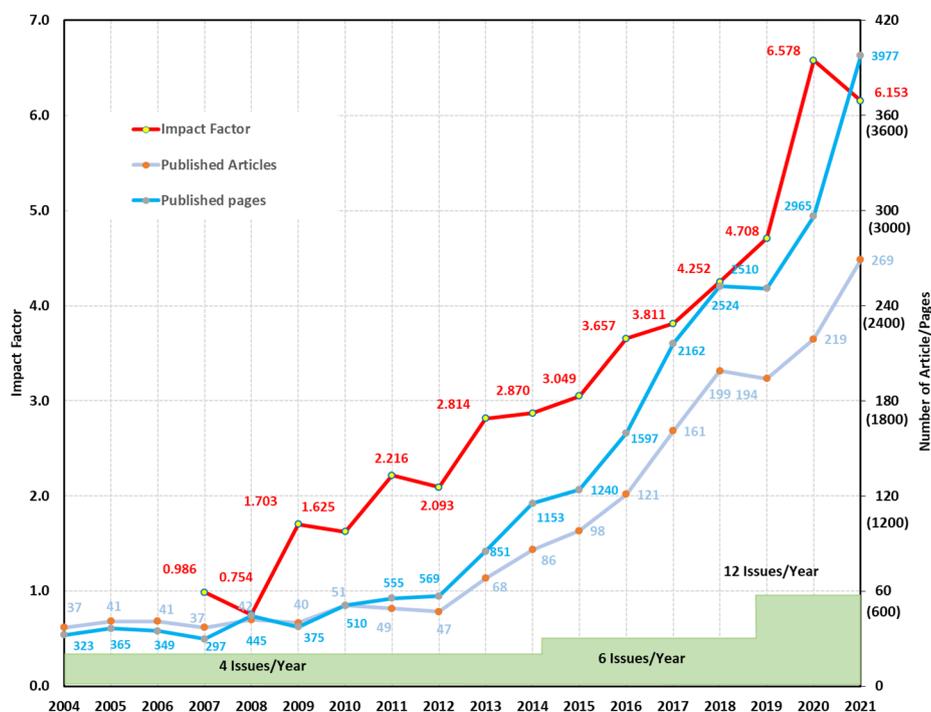


図1 Landslides の年発行回数／発行記事数／発行頁数及びインパクトファクターのジャーナル創刊からの推移

クラリベイト・アナリティクス（旧：[トムソン・ロイター](#)）によるインパクトファクターの2014-2021年の値と、*Landslides* を含む分野（Engineering, Geological）でのジャーナルの総数と順位は下記の通りである

Year	Impact Factor	Citations	IF Rank
2021	6.153	2781	4/41
2020	6.578	2,263	4/41
2019	4.708	1,549	2/39
2018	4.252	1,131	1/38
2017	3.811	766	1/36
2016	3.657	640	1/35
2015	3.049	439	1/35
2014	2.870	287	1/32

$\text{2021年インパクトファクター} = \frac{\text{過去2年間の出版記事が2021年に引用された数}}{\text{過去2年間（2019年と2020年）の出版記事の数}}$
--

エルセビア社による Scopus ジャーナルのサイトスコアでの2014-2021年の値と、*Landslides* を含む分野（Geotechnical Engineering and Engineering Geology）でのジャーナルの総数と順位は下記の通りである。

Year	CiteScore	Citations/4 years	CiteScore Rank
2021	10.6	8174	6/203
2020	8.9	6122	5/195
2019	8.2	4881	1/189
2018	6.2	3224	6/176
2017	6.6	2894	1/175
2016	6.0	2068	1/167
2015	5.3	1474	6/167
2014	4.2	1012	8/160

$\text{2021年サイトスコア} = \frac{\text{2021年を含む過去4年間の記事の引用数}}{\text{2021年を含む過去4年間の出版記事の数}}$
--

上記の表は、国際斜面災害研究機構の編集・出版する国際ジャーナルが、令和3年度においてもこれまで以上に、*Landslides* を含む分野において、41国際ジャーナルの中で4番(インパクトファクター)、203国際ジャーナルの中で6番(サイトスコア)の評価(レベル)を受けたことを示している。

2) 第5回斜面防災世界フォーラムの開催、

3年に一度開催する斜面防災世界フォーラムの第5回会議を開催した。その概要は以下の通りである。

主催団体等名：第5回斜面防災世界フォーラム組織委員会

共催及び後援等支援団体等名：

共催：(特非)国際斜面災害研究機構、国際斜面災害研究計画・地球規模推進委員会、京都大学、(公社)日本地すべり学会、(公社)地盤工学会、日本自然災害学会、(一社)斜面防災対策技術協会

後援：内閣府政策統括官(防災担当)、外務省、文部科学省、国土交通省、農林水産省、日本学術会議、(独法)国際協力機構、(公社)土木学会、(公社)農業農村工学会、(公社)砂防学会、(一社)日本応用地質学会

助成：京都大学教育研究振興財団、(公社)東京地学協会、国際地質科学連合(IUGS)、(一財)防災研究協会、(公財)京都文化交流コンベンションビューロー

事業開催期間: 2021年11月2日 ～ 2021年11月6日

事業開催場所：京都市左京区岩倉大鷲町422 国立京都国際会館

実施概要：参加者総数525名(オンサイト154名, オンライン371名)

参加国/地域/国連機関数：52, 論文口頭発表者492名

第5回斜面防災世界フォーラムは、新型コロナ流行を考慮して、現地参加、リモート参加を組み合わせたハイブリッド方式で開催した。

(1) 2021年11月2日 会議登録を開始し、第20回BOR/ICL及び第16回GPC/IPLミーティングを開催した。

(2) 2021年11月3日

開会式：議長：佐々恭二(WLF5フォーラム議長)及びQunli Han(国際斜面災害研究計画・地球規模推進委員会・議長(GPC-IPL)/災害リスク統合研究(IRDR)理事長)

主催者代表による開会の辞

・Nicola Casagli(国際斜面災害研究機構・会長)

国際連合機関からの開会の辞

・David Malone(国連事務次長/国連大学長)

・Mami Mizutori(国連事務総長特別代表(防災担当)兼国連防災機関長)

・Petteri Taalas(世界気象機関事務局長)

・Maria Helena Semedo(国連食糧農業機関副事務局長)

・Shamila Nair-Bedouelle(ユネスコ自然科学担当事務局長補佐)

学術機関からの開会の辞

・José M.P. Vieira(世界工学団体連盟(WFEO)次期会長)

・Kathryn Whaler(国際測地学・地球物理学連合(IUGG)会長)

・John Ludden(国際地質学連合(IUGS)会長)

ホスト機関からの歓迎メッセージ

- ・綱川浩章(国土交通省水管理・国土保全局砂防計画調整官)
- ・村上 章(京都大学 理事・副学長)

## ハイレベルパネル討論 “KLC2020 の現状と今後について”

フォーラム組織委員長による開会の辞

- ・Peter Bobrowsky(カナダ地質調査所、国際斜面災害研究機構・前会長)
- ・寶 馨(京都大学思修館・教授)による開会の辞

### 議長

- ・Matjaž Mikoš(国際斜面災害研究計画・地球規模推進委員会・議長 / 第4回斜面防災世界フォーラム・組織委員長, Ljubljana, 2017)
- ・小長井一男(国際斜面災害研究機構・学術代表、東京大学名誉教授)

### 基調講演

佐々恭二(KLC2020 事務局長): KLC2020 及びオープンアクセスブックシリーズについて  
KLC2020 調印組織のパネリスト9名によるスピーチ

### ICL 支援機関:

- ・Paola Albrito(国連防災機関・政府間プロセス/機関間協力とパートナーシップ担当長)
- ・安川総一郎(ユネスコ防災プログラム担当スペシャリスト)
- ・José M.P. Vieira(世界工学団体連盟・次期会長)
- ・北里洋(国際地質学連合・会計、東京海洋大学・教授)
- ・John LaBrecque(国際測地学・地球物理学連合 GeoRisk Commission 委員長, 米国テキサス大学・宇宙兼研究センター教授)

### ICL 正会員:

- ・Binod Tiwari(国際斜面災害研究機構・アメリカ担当副会長、カルフォルニア州立大学教授)
- ・Paola Reichenbach(イタリア学術会議 IRPI 研究所・研究ディレクター)
- ・Maneesha Ramesh(インド・アムリタ大学・持続できる開発と国際プログラム学部長)

### ICL 賛助会員:

- ・田内宏明(日本工営(株)総合防災部長)

### パネル討論のまとめ(Concluding Remarks)

Sálvano Briceño(初代国際斜面災害研究計画・地球規模推進委員会・議長(2007-2014)、元国連防災戦略事務局局長(2001-2011))

すべての参加者による KLC2020 のための ICL オープンアクセスブックシリーズ創刊宣言の採択

全参加者による舞台上での集合写真撮影 (Room A)

### フォーラム講演/フォーラムスピーチ

#### 議長:

- ・Željko Arbanas (Vice President for Europe, University of Rijeka, Croatia)

・Veronica Tofani (Vice President for WLF6, University of Florence, Italy)

#### フォーラム講演

- ・Fausto Guzzetti (General Director of Office III, Department of Civil Protection, Italian Presidency of the Council of Ministers, Italy): On the prediction of landslides and their consequence
- ・Charles NG (Chair Professor and Dean of Graduate School, Hong Kong University of Science and Technology, China): Interaction mechanisms between debris flow and multiple barriers

#### フォーラムスピーチ

Dwikorita Karnawati (Head of Agency for Meteorology, Climatology, and Geophysics of the Republic of Indonesia): Promotion of intergovernmental network of ICL-KLC2020

#### 業績紹介と授賞式

地すべり災害軽減のためのセンターオブエクセレンスの紹介及びバーンズメダル・国際斜面災害研究プロジェクト(IPL) 賞授与

(3) 11月4, 5日

#### パラレルセッション

テーマ 1: 仙台パートナーシップ 2015-2025 と京都 2020 コミットメント

テーマ 2: ハザードおよび脆弱性マッピングとゾーネーション

テーマ 3: 計測と早期警戒

テーマ 4: 試験、モデリングとリスク評価

テーマ 5: 大災害を引き起こす地すべりと最先端の地すべり科学

テーマ 6: 地すべり科学とその応用に関する個別課題

日本地すべり学会による電子プロシーディングセッション

世界津波の日特別事業

(4) 11月6日

#### フォーラム講演及び受賞講演

議長:

- ・Vít Vilímek (Vice President for Mission (KLC2020), Charles University, Prague, Czech Republic)
- ・Fawu Wang (Professor, Tongji University, China)

#### フォーラム講演

- ・Michel Jaboyedoff (Professor, University of Lausanne, Switzerland): Improving the rockfall failure hazard assessment.
- ・Brian Collins (Research civil engineer, U.S. Geological Survey, USA): Progress and lessons learned from responses to catastrophic landslides

#### 受賞講演

Claudio Margottini (ISPRA - Dpt. Geological Survey of Italy) 福岡浩 IPL 賞・受賞講演

Beena Ajmera (Assistant Professor, North Dakota State University, USA) Oldrich Hungr Award lecture

## 閉会式

ICL President による閉会の辞 Nicola Casagli (2021.1.1 - 2023.12.31)

ICL President による新 ICL メンバーの紹介

ICL President による新 ICL members への Certificates の授与(2017-2021)

WLF5 組織委員長による WLF5 財政支援機関とスポンサーへの謝辞

第 6 回斜面防災世界フォーラムの紹介 (WLF6 Forum Chair, Nicola Casagli)

3) 世界的地すべり災害軽減に向けた新たな協力枠組み「京都地すべりコミットメント2020」発効にもとづき、ICLの公式のBook Series ”ICL Contribution to Landslide Disaster Risk Reduction”(ISSN2662-1894)を創設し、2021年にその6巻からなる本「Understanding and Reducing Landslide Disaster Risk」を出版した。

地すべり災害リスクの理解と軽減 (Understanding and Reducing Landslide Disaster Risk) 2535頁

Volume 1	<b>Editors:</b> Kyoji Sassa, Matjaž Mikoš, Shinji Sassa, Peter T. Bobrowsky, Kaoru Takara, Khang Dang <b>Title:</b> Sendai Landslide Partnerships and Kyoto Landslide Commitment	579 pages
Volume 2	<b>Editors:</b> Fausto Guzzetti, Snježana Mihalić Arbanas, Paola, Reichenbach, Kyoji Sassa, Peter T. Bobrowsky, Kaoru Takara <b>Title:</b> From Mapping to Hazard and Risk Zonation	418 pages
Volume 3	<b>Editors:</b> Nicola Casagli, Veronica Tofani, Kyoji Sassa, Peter T. Bobrowsky, Kaoru Takara <b>Title:</b> Monitoring and Early Warning	322 pages
Volume 4	<b>Editors:</b> Binod Tiwari, Kyoji Sassa, Peter T. Bobrowsky, Kaoru Takara <b>Title:</b> Testing, Modeling and Risk Assessment	456 pages
Volume 5	<b>Editors:</b> Vit Vilimek, Fawu Wang, Alexander Strom, Kyoji Sassa, Peter T. Bobrowsky, Kaoru Takara <b>Title:</b> Catastrophic Landslides and Frontiers of Landslide Science	374 pages
Volume 6	<b>Editors:</b> Željko Arbanas, Peter T. Bobrowsky, Kazuo Konagai, Kyoji Sassa, Kaoru Takara <b>Title:</b> Specific Topics in Landslide Science and Applications	386 pages

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業 の実施日時 (B) 当該事業 の実施場所 (C) 従事者の人 数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費 の金額 (単位： 千円)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会と環境に資するための国内外における斜面災害研究の推進</li> <li>●斜面災害軽減のための能力開発と教育・広報</li> <li>●斜面災害にかかわる学術雑誌の編集、出版と販売</li> <li>●国際会議（シンポジウム、現地討論会）、講演会・講習会の企画と開催</li> <li>●国際機関との連携・協力</li> <li>●その他、この法人の目的を達成するために必要な事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公式月刊ジャーナル「Landslides: Journal of the International Consortium on Landslides」の編集発行</li> <li>●第5回斜面防災世界フォーラムの開催</li> <li>●6巻からなる本地すべり災害リスクの理解と軽減「Understanding and reducing landslide disaster risk」の出版</li> </ul>	<p>(A) R3年4月1日～R4年3月末</p> <p>(B) 京都</p> <p>(C) 120名</p>	<p>(D) 研究者、技術者、防災政策立案者、</p> <p>(E) 世界52ヶ国計825名</p>	